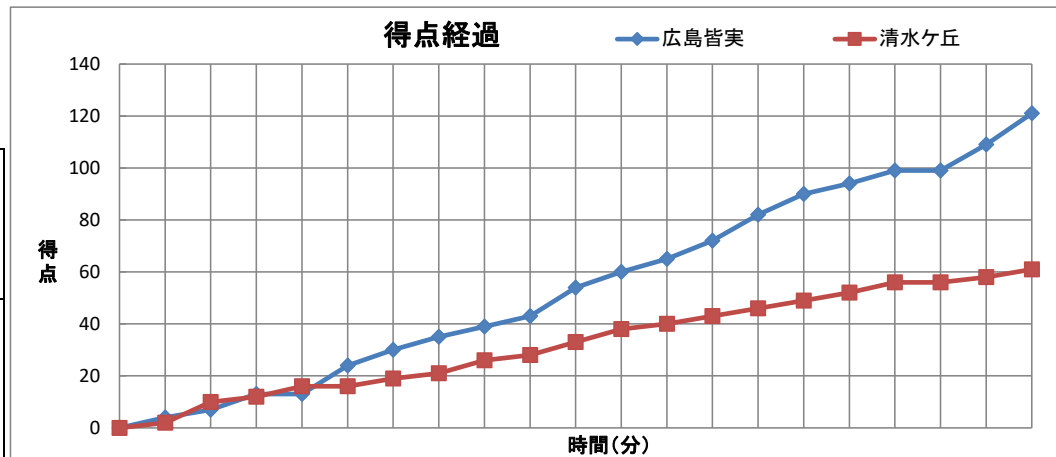


個人トータル表

女子		令和5年11月4日 9:00 開始																	
決勝		エフピコアリーナふくやま 0																	
◎ 広島皆実 121 (広島県)		<table border="1"> <tr> <td>24</td> <td>1st</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>2nd</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>36</td> <td>3rd</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>4th</td> <td>12</td> </tr> </table>				24	1st	16	30	2nd	17	36	3rd	16	31	4th	12	61	清水ヶ丘 (広島県)
24	1st	16																	
30	2nd	17																	
36	3rd	16																	
31	4th	12																	
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則						
* 4	大上 粹奈	22	0	10	2	2	5	堀 帆乃花	-	-	-	-	-						
* 5	小西 史夏	15	2	3	3	2	6	松原 瀬菜	2	0	0	2	2						
* 6	松前 結奈	36	4	9	6	2	7	伊藤 結菜	0	0	0	0	0						
7	橋本 幸々路	3	0	1	1	1	* 8	木村 歌歩	12	0	5	2	5						
8	田所 彩実南	8	0	2	4	2	9	荒木 夏歩	-	-	-	-	-						
9	有田 紗寧	3	1	0	0	0	10	黒川 愛希	-	-	-	-	-						
10	湊 陽菜	3	1	0	0	1	* 11	横丸 紗也	3	1	0	0	1						
11	上城 咲希	7	0	2	3	0	12	平川 美沙	0	0	0	0	3						
12	銭谷 花菜	14	0	7	0	0	* 13	仲山 志希	12	4	0	0	4						
* 13	川口 空夏	3	1	0	0	2	14	樽本 和香	5	0	1	3	1						
14	上本 咲那	0	0	0	0	0	* 15	井澤 菜乃	14	4	1	0	4						
15	藤川 凜里	2	0	1	0	0	16	小川 朝妃	0	0	0	0	0						
* 16	丸野 遥菜	5	1	1	0	2	17	大原 絢夢	-	-	-	-	-						
17	原田 誉	0	0	0	0	0	* 18	新宅 真未	13	1	5	0	5						
18	馬場 遥菜	0	0	0	0	0													
コーチ	村井 幸太郎					0	コーチ	小原 健太					0						
Aコーチ	福田 理恵						Aコーチ	大久保 忠雅											
合計		121	10	36	19	14	合計		61	10	12	7	25						
主審: 森原 隆																			
副審: 津田 弥子																			
副審: 熊本 裕一朗																			



CTO	1・2P	3・4P		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	:	:	:	:	:
TeamB	15:22	13:45	24:54	35:59	:	:	:

戦評 スタートは、広島皆実#4.5.6.13.16、清水ヶ丘#8.11.13.15.18  
 Q1 両チームともハーフコートマンツーマンディフェンス。お互い激しいDFにより1分間は得点が入らず。その中で先制したのは、清水ヶ丘#15のドライブ。続けて清水が丘#15の3ポイントを2本決める。それに対して広島皆実は#5と#13の3ポイントで迎え撃つ。  
 中盤、広島皆実#4が清水が丘のダブルチームディフェンスに抑え込まれ、なかなか流れを持って来れない。開始3:30で13-16と清水ヶ丘がリード。しかし、終盤に近づくにつれ、清水が丘のチームファウルが5つになり苦しい状況に。残り1:12でついに広島皆実が逆転。そのまま広島皆実が速攻を重ね、24-16で広島皆実がリードで終える。  
 Q2 開始早々、清水が丘#13が3ポイントを決める。その後も清水が丘は3ポイントを果敢に狙うも入らず、逆に広島皆実が3ポイントを決められ6:54の時点で35-19と広島皆実にリードを広げられる。タイムアウト後に清水が丘#8と#18が連続得点し、オフェンスにギアを入れていく。継続して清水が丘は3ポイントを狙っていくが、広島皆実は相手のシュートに対してボックスアウトを徹底し、ディフェンスリバウンドからの速攻で連続得点する。たまたま清水が丘は残り4分でタイムアウトをとる。タイムアウト後はオールコートマンツーマンディフェンスで応戦。清水が丘の猛攻もあったものの広島皆実がディフェンスリバウンドをきっちり取り、オフェンスではゴール下やミドルシュートをきっちり決め、残り1:30の時点で48-28とリードを広げる。Q2は54-33と広島皆実がリードで終了。  
 Q3 清水が丘はオールコートマンツーマンディフェンスで激しくプレッシャーをかけていく。皆実はハーフコートマンツーマンディフェンスできっちり守っていく。清水が丘は激しいディフェンスで流れを作り、#15の3ポイントや#18のドライブで得点していくものの皆実の#4を中心としたオフェンスやディフェンスでリードは縮まらず。残り4:42で清水が丘の#8がファールアウト、また、残り2:38で広島皆実#4が足の負傷により交代。両チームとも大きな戦力が欠けたもののディフェンスに激しさが増していく。しかし、広島皆実はベースを崩すことなく90-49で広島皆実のリードで終了。  
 Q4 清水が丘はQ3と同様にオールコートマンツーマンに対して、皆実は2-2-1のオールコートゾーンプレスで応戦。清水が丘#18が激しいDFの中、スティールで自ら得点し、流れを持ってくる。清水が丘はその後もDFを頑張るものの清水が丘#18がファールアウトとなる。残り4:00清水が丘のタイムアウト後、清水が丘は果敢に3ポイントを狙っていく。落ちたボールを必死に追いかける清水が丘だが、皆実のディフェンスリバウンドが勝り、リードを広げていく。中盤から終盤にかけては広島皆実の3ポイント・速攻・ドライブなど多彩なオフェンスを繰り広げ、試合を優勢に運び、試合終了のブザーが鳴った。最終スコアは121-61で広島皆実の勝利。両チームとも総力戦で最後までボールを追いかけた。  
 両校ともに全力を尽くした好ゲームであった、12月23日からのウィンターカップでの両校の健闘に期待したい。

担当 井早翼